

ジャンボ門松を見て明るい新年に

商工会第7支部が農協前にジャンボ門松を設置

商工会第7支部（高郷、八中、梅高）では12月17日、高さ約3m、直径30cmほどもある巨大な「門松」の設置作業を実施しました。今年は農協茶業センター前の国道脇に設置。当日は会員ら約20人が参加しました。

藤田益広支部長は「昨年実施した後、皆さんから数多くの意見をいただきました。それらを参考に、今年は設置場所を変更したり、竹部分を明るい色に塗り直したりと改良を施しました。東日本大震災など悲しいニュースが多かった年。この門松を見て、みんなが明るく新年を迎えてもらえたらうれしいです」と話していました。和気あいあいと進められた約2時間の作業。道行く車が興味深げに見ていました。この門松は1月中旬まで設置されました。

豪快に放水される様子を見つめる家族連れ。



会員約20人が参加して2基の門松を設置しました

平成24年川根本町消防団出初式は1月8日、中川根中学校体育館および同校グラウンドで挙行され、団員273人が出動しました。開会式に引き続いて挙行された表彰式では、長年消防団活動に尽力し、功績があった団員に表彰状が手渡されました。

式典では高田智祥団長が「東日本大震災では消防団の活動が注目されたが、同時に多くの命も失われた。地域住民を守るとともに、自らの安全も確保するため、一層訓練に励み、的確な消防団活動をしてほしい」と述べました。

式典後には分団によるポンプ操法が披露され、長尾川の横で一斉放水を実施。1年間の無災害を願いました。

消防団出初式に273人の精鋭が集結

●表彰者一覧（敬称略）

日本消防協会長表彰

〔功績章〕

本 部 副団長 栗田浩行

〔精績章〕

本 部 副団長 中村光一

静岡県消防協会長表彰

〔功績章・勤続功労章（25年）〕

第4分団 分団長 上山 滋

〔特別功労章・勤続功労章（20年）〕

本 部 本部長 諸田孝行

第1分団 副団長 大村善彦

第4分団 班 長 森下和典

〔功労章・勤続功労章（15年）〕

本 部 本部長 小平勝彦

本 部 本部長 西澤孝仁

本 部 団 員 中村靖久

第1分団 団 員 望月克規

第1分団 班 長 大村一成

第1分団 班 長 中村 剛

第2分団 団 員 中村裕好

第4分団 班 長 峠下晋士

第5分団 副団長 中村克哉

第5分団 部 長 榊原義明

第5分団 団 員 相藤直紀

第6分団 団 員 大嶋雄一郎

第6分団 副団長 高木 徹

第6分団 団 員 長嶋洋晃

第7分団 団 員 高木徳幸

第8分団 団 員 山本光彦

第8分団 団 員 坂本基史

第8分団 団 員 西村大吾

静岡県消防協会長・榛原支部長表彰

〔勤続功労章（10年）・功績章（10年）〕

第1分団 団 員 芦沢文利

第2分団 班 長 小林知宏

第3分団 団 員 山本充彦

第4分団 班 長 福住昌孝

第4分団 団 員 澤田 将

第5分団 班 長 瀧本貴宏

第5分団 団 員 山本隆之

第5分団 団 員 林 裕規

第6分団 部 長 加藤史崇

第6分団 班 長 高畑和弘

第6分団 班 長 露木清人

第6分団 班 長 村松 研

第6分団 団 員 長嶋洋介

第7分団 分団長 藤本昌宏

第7分団 部 長 杉本良樹

第7分団 団 員 小坂暢行

第7分団 部 長 伊藤享広

第8分団 班 長 澤口一政

第8分団 団 員 中川貴史

静岡県消防協会榛原支部長表彰

〔特別功労章〕

本 部 本部長 北村浩二

第1分団 分団長 鈴木克則

第2分団 分団長 杉本賢城

第3分団 分団長 宮木典彦

第4分団 分団長 上山 滋

第5分団 分団長 金子健司

第6分団 分団長 梶原正威

第7分団 分団長 藤本昌宏

第8分団 分団長 山田和矢

静岡県消防協会榛原支部長・本町優良団員表彰

〔勤続功労章（5年）〕

本 部 団 員 太田英亮

第1分団 団 員 金澤 毅

第2分団 団 員 鈴木秀利

第3分団 団 員 森下 仁

第4分団 団 員 笹木 敦

第4分団 団 員 相川智弘

第4分団 団 員 小澤貴史

第5分団 団 員 松本佳樹

第5分団 団 員 宮上勇輔

第6分団 部 長 梶原孝亮

第6分団 団 員 久野 宏

第7分団 副団長 澤西卓也

第7分団 団 員 橋本大吾

第7分団 部 長 鈴木洗希

第7分団 班 長 佐々木真也

第7分団 副団長 鳥居将吾

※日本消防協会長表彰は2月に表彰状伝達

温泉の湧出に感謝を込めて

寸又峡温泉で49年目の感謝祭・供養祭

温泉が湧き出してから49年目を迎えた寸又峡では12月7日、温泉感謝祭を開催しました。天狗と山伏行列が会場に到着すると、つめかけた来場者大きな拍手が湧き起こり催しがスタート。会場となった公民館前広場では、イノシシ鍋、シカ鍋、おでんなどの味覚が所狭しと並び、会場を埋める来場者たちが冷えた体を温めました。来年は開湯50周年を迎える寸又峡。どんなイベントが繰り広げられるか今から楽しみです。



観客の笑いを誘った「下駄飛ばし」

楽しみながら「食」を学ぶ

文化会館で食育スクール第4回を実施

食育の大切さを楽しみながら学ぶ「食育スクール第4回」は12月17日、文化会館で開かれ、親子6組が参加しました。この日のメニューは季節に合わせて「おせち料理」。伊達巻き、黒豆の寿司などおめでたいメニューに挑戦しました。参加した子どもたちは、紫色の黒豆ご飯が酢を加えたときにピンク色に変わるさまに驚いたり、伊達巻きをくるくる巻いたり、楽しそうに料理しながら、食について学びました。



実習後にみんなで記念撮影

寸又峡美女づくりの湯観光事業協同組合では12月20日、外森山神社「落ちない大石」で合格を祈願した絵馬とオリジナル一煎茶パックを、中川根中、本川根中、川根高校の受験生に贈呈する事業を実施しました。

受験シーズン真っただ中の生徒たちを応援しながら、外森山神社「落ちない大石」をPRするのが目的です。

午後1時半、川根高校を訪れた組合員ら（望月孝之理事長、天狗、山伏）は生徒が待つ教室を訪問。絵馬と一煎茶パック27人分を、天狗に扮した組合員の手から生徒に渡しました。同組合望月孝之理事長は生徒に向け「ぜひ絵馬に願いごとを書いて、寸又峡外森山神社参道入口にある絵馬かけに願掛けに来てください。皆さんが全員志望校に合格できるよう祈っています」と激励の言葉を送りました。

生徒を代表して松下稔也さんが「素晴らしいプレゼントをありがとうございます。生徒全員の志望校合格を目指して頑張ります」とお礼を述べました。

このあと本川根中学校、中川根中学校も訪問。川根高校と同様、絵馬とオリジナル一煎茶パック「落ちない茶」をプレゼント（本川根中18人、中川根中35人分）しました。

絵馬に願掛けし志望校合格を

寸又峡が「落ちない大石」絵馬をプレゼント



天狗の手から生徒へ絵馬とオリジナル一煎茶パック

Topics

川根本町の まちの話題